



第549号

2017年(平成29年)10月20日
毎月1回20日発行

P1

自己実現・自己表現を考える

- 音楽.....P2
- ダンス.....P3
- ファッション.....P4
- 絵画.....P6
- etc.....P8

P10

会報リニューアルについて

P12

キラッとひかる!

P13

わが施設、事業所の天下一品

P14

私の街のっておき

特集

「その人らしく」生きる

自己実現・自己表現を考える

上智大学教授、編集委員長 大塚晃

障害の分野に限ったことではありませんが、「その人らしく生きる」という言葉がよく使われます。では、一体「その人らしさ」って何でしょうか？ 障害のある人が、障害のない人のように生きることが目指すのではなく、障害のある自分を大切にしながら生きていくということではないでしょうか。また、障害を克服すべきものというのではなく、障害があるというそのまますべて肯定して生きていくってほしいというメッセージと解釈できませんでしょうか。

アメリカの心理学者マズローは、

人間の欲求には5段階の階層があることを提唱しました。これは、マズローの欲求段階、自己実現理論と称されるものです。それによれば、生命を維持するという低次の欲求から精神的な高次の欲求に向かつて、①生理的欲求、②安全の欲求、③社会的欲求／所属と愛の欲求、④承認(尊重)の欲求、そして⑤自己実現の欲求があるといえます。マズローにとって人間は「自己実現に向かつて絶えず成長する」ものであるとも言っています。

自己実現の欲求は、自分のもち

能力や可能性を最大限発揮し、具現化して自分がなりえるものになる欲求であるとされています。それは、自分の能力を引き出し、創造的活動を通して「その人らしく生きる」ことといってもよいでしょう。

国においても、社会に生きる人たちがすべてがかけがえのない存在として大切にされ、自分の個性や才能を生かしながら、社会に参加・貢献できる「ぬくもりのある日本」の実現を目指し、障害のある方々による自由な芸術文化活動が推進されています。障害のある人の芸

術および文化活動への参加を通して、障害のある人本人の生きがいや自信を創出し、障害のある人の自立と社会参加を促進するとともに、障害に対する国民および県民の理解と認識を深めるために、障害者芸術・文化祭が全国持ち回りで開催されています。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も、障害のある人のスポーツのみならず芸術文化の振興のための絶好のチャンスといえるでしょう。